

総合計画／実施計画書 兼 事務事業評価シート

事業期間 H21 ～ H23

担当部局	部局名	保健福祉部
	課室名	健康推進課

1. 基本施策名等（基本計画における「基本施策名」等を記入）		
基本施策ID	基本施策名	
1 - 1 - 2	誰もが安心できる医療体制を整える	
重点施策ID	重点施策名	
1 - 1 - 2 - 2	救急医療体制、小児医療体制づくりの推進と情報提供	

2. 事業名等			
事業名	小児救急医療対策事業	事業区分	② ①新規 ②継続 ③その他 ()
細事業名		実施形態	① ①毎年 ②隔年 ③その他 ()
事業主体	県・市		① ①直営 ②指定管理 ③委託
事業種別	① ①自治事務 ②法定受託事務		④その他 ()
実施期間	平成 19 年度 ～ 平成 23 年度	根拠法規	豊後大野市小児救急医療対策事業費補助金交付要綱
各種の計画への反映 (=根拠計画)		事業ID	

3. 事業の内容等			
事業の背景 少子化・核家族化・夫婦共働きといった社会情勢や家庭環境の変化により、子どもの急病時の対応において、相談・支援が可能な体制の整備が求められている。	補助事業	名称	大分県小児救急医療対策事業
		補助率	国 県 その他 1/ 1/2 1/
	起債の種類	① ② ③	

事業の目的及び対象	事業概要
【目的】 休日又は夜間に小児初期救急患者を受け入れる体制を整備し、休日等における小児救急患者の医療を確保することを目的とする。	輪番制方式により小児診療を行う市内の医療機関（県立病院を除く）に対して補助金を交付。 3,290円（1時間当たりの単価）×1日の診療時間数×診療日数 ※ H21. 3要綱一部改正（単価：3,270円 → 3,290円）
【対象】 輪番制方式により小児診療を行う市内の医療機関	前年度の評価 評価結果に基づき見直した内容 E 維持

4. 予算・決算の状況 (単位：千円)								
財源内訳		H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23～
予 算	国庫支出金							
	県支出金			250	250	309	250	250
	地方債							
	その他							
	一般財源			250	250	310	250	250
	計			500	500	619	500	500
決 算	国庫支出金							
	県支出金			235	226			
	地方債							
	その他							
	一般財源			235	227			
	計			470	453			

5. 実績及び達成目標等			
過去3年間の事業実績と課題			
平成18年度	平成19年度	平成20年度	課題
【実績】	【実績】 受診者数 1,483人	【実績】 受診者数 1,465人	

達成目標と前年度までの進捗状況……事業成果の目標となる指標と目標数値										
活動指標	補助金の交付額									
効率指標	-									
成果指標	受診者数									
	単位 人									
年度	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	備考			
種別			受診者	受診者	受診者	受診者				
目標値			1,483	1,483	1,483	1,483				
実績値			1,483	1,465						
達成率			100.0%	98.8%						
備考										

総合計画／実施計画書 兼 事務事業評価シート

評価対象年度 H20 年度

評価実施年度 H21 年度

担当部局	部局名	保健福祉部
	課室名	健康推進課

6. 前年度の事業評価				評価に関する視点	
事業の 必要性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	5	時代や市民ニーズの変化への対応、事業目的の緊急性、重要性、さらには他の自治体の動向等を踏まえて評価する。	
理由	休日又は夜間に小児初期救急患者を受け入れる体制を整備し、休日又は夜間における小児救急患者の医療を確保するために、小児救急医療対策事業の実施が必要なため。				
行政の 与	1 2 3 4 5 不要 ← → 必要	評価	5	この事業は行政が実施しなければならない事業なのか、民間でサービスを提供できないのか等、民間との役割分担を考慮して評価する。	
理由	民間を含めた医療機関が輪番制を実施しており、現状の医療を確保するための支援が必要であるため。				
手段の 妥当性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	5	行政がこの事業を行うこととした場合、事業実施の方法は妥当か、効率的な方法なのか等、外部委託や受益者負担等を含めて評価する。	
理由	輪番制により休日の医療が確保できているため、手段は妥当である。				
事業の 効果	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	5	事業の効果は上がっているのか、事業は効率的に実施できたのか、事業経費は事業実績と比べてどうか等、費用対効果も含めて評価する。	
理由	輪番医療機関へ補助を行うことにより、休日又は夜間における小児救急患者の医療を確保することができるため。				
事業の 算	1 2 3 4 5 減額 ← → 増額	評価	3	全ての行政経費の削減が求められる中で、予算を減額できないか、できないのであればその理由はなぜか等、事業経費の面について評価する。	
理由	年度毎に、県の基準単価が変動するため若干の予算増減は生じるが、事業の予算は現状維持とする。				
人 体 制	1 2 3 4 5 減員 ← → 増員	評価	3	事業経費と同様、職員全体を削減せざるを得ない状況の中で、組織の見直し、グループ制の活用、外部委託等の様々な手法を含めて評価する。	
理由	事務量の変更がないため。				
事業 規模	A B C D E F 廃止 終了 統合 縮小 維持 拡大	評価	E	今後の事業規模の方向性について、事業の必要性、緊急性、事業経費や担当職員数の増減等を検討し、社会情勢や市民生活への影響等も十分考慮した上で、事業全体としてどのような方向へ進めていくのかを総合的に判断する。	
理由	休日又は夜間に小児初期救急患者を受け入れる体制を整備し、休日又は夜間における小児救急患者の医療を確保するために、現状の補助を維持することが必要なため。				
その他、特記事項	事業の内容や事業規模に関する意見、補足説明、事業改善の方向性等、特記すべき事項を記載する。				
輪番医療機関 県立三重病院・公立おがた総合病院・みやわき小児科・竹田医師会病院 ※ 現在、竹田医師会病院は輪番制から外れている（平成21年7月1日時点）					
部 長	課 長	班 長	担 当 者	内線 E-mail @bungo-ohno.jp	